様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：３５４０９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０２７８

研究課題名（和文）コンピュータを使った『カンタベリー物語』Hg，El写本及び刊本の比較と分析

研究課題名（英文）A Computer-Assisted Comparison and Analysis of the Hg and El MSs and the Editions of of The Canterbury Tales

研究代表者
中尾　佳行（NAKAO, Yoshiyuki）

福山大学・大学教育センター・教授

研究者番号：１０１３６１５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：コンピュータを利用し『カンタベリー物語』の２写本HengwrtとEllesmereと２刊本Blake (1980)、Benson (1987)の４テクストパラレルコンコーダンスを完成させた。懸案であった散文作品、MelibeeとParson's Taleのコンコーダンスも完成させた。研究成果の一部（写本と刊本に起因する言語特徴と両者間での読み解きの違い）を第19回及び第20回新チョーサー学会で発表した。第20回大会では、中英語テクスト編集のディジタル的アプローチを企画した。第17回新チョーサー学会での発表した原稿（写本間の飾り文字とヴァーギュール）を中尾・地村(2016)で論文化した。

研究成果の概要（英文）：We made a computer-assisted parallel conncordance between the four texts, that is, the two manuscripts: Hengwrt and Ellesmere and the two editions: Blake (1980) and Benson (1987) of the Canterbury Tales. We were able to compole a parallel concordance of the prose texts, Melitte and Parson's Tale. We read papers about the textual differences between the manuscripts and the editions and their affecting of the interpretation of them in the 19th and 20th congresses of the New Chaucer Society (respectively in Reykjavik, Iceland and in London University, UK). In the 20th congress, we organized “Roundtable: Digital Approaches to Middle English Editing.” We published “A Computer-Assisted Textual Comparison among the Manuscripts and the Editions of the Canterbury Tales: With Special Reference to Caxton’s Editions” and "The Language and Style of the Manuscripts and Editions in the Canterbury Tales," a paper about special letters like illuminations and punctuations like virgule, both in 2016.

研究分野：英語学

キーワード：Chaucer　Ｈｅｎｇｗｒｔ　Ｅｌｌｅｓｍｅｒｅ　Blake (1980)　Benson (1987)　ｐａｒａｌｌｅｌ　ｃｏｎｃｏｒｄａｎｃｅ　Adam Pinkhurst　ｄｉｇｉｔａｌ　ａｐｐｒｏａｃｈｅｓ

１．研究開始当初の背景

(1) G..チョーサーのテクスト批評研究は、コンピュータ支援のコーパス言語学の発達で、写本の電子化が推し進められ、現代の編集された刊本のみでなく、チョーサーのオリジナルに近い写本に焦点が当てられてきている。写本は、刊本では読み解けない、多くの情報（文字の装飾、絵などの視覚情報、レイアウト等）を含んでおり、テクストを捉えていくパラテクスト（テクストの理解を補充するテクスト）として有益である。また異写本の問題は、どちらがよりオリジナルに近いのか、また中英語テクストのヴァリエーションの特性から見て、そもそも両方の可能性が在り得たのか等、興味深い問題点を提供してくれる。

(2) コーパス言語学の手法を取り入れて、これらの問題を体系的に捉え、それぞれのテクストの編集方針を明確にする必要がある。現在の研究状況では、この種の研究はまだ萌芽的であり、十分には行われていない。

(3) チョーサーの代表的な作品である『カンタベリー物語』(*The Canterbury Tales*)を取り上げ、チョーサーのオリジナルに最も近いとされる写本、Hengwrt 写本(Hg)とそれに編集を加え完成度を高めたとされる Ellesmere 写本(El)、及び前者の写本を忠実に再現した Blake (1980)と後者の写本に基本的に依拠した Benson (1987)の 4 テクストのコレーション・コンコーダンスを作成し、写本間でまた写本と刊本でどのようなテクスト上の差異が見られるかを検討する。

(4) 上記 4 テクストの比較において、写本レイアウト、句読点、諸言語特徴（語彙、統語、談話、韻律、方言等）を体系的かつ統計的に調査することは、これまで未開拓の領域で、チョーサーのテクスト批評に貢献する上で緊急課題であると考えた。

２．研究の目的

(1) 本研究の目的は、チョーサーの『カンタベリー物語』の 2 つの重要な写本とそれに対応する 2 つの代表的な刊本を取り上げ、コーパス言語学の手法を援用して 4 つのテクストのパラレルコンコーダンスを作成し、チョーサーのテクスト及び言語解析に貢献することである。2 つの写本は、当該作品 80 余写本のうち最も注目されている Hg 写本と El 写本、2 つの刊本は、Hg に依拠した N. Blake, ed. (1980) *The Canterbury Tales*, Edward Arnold と El に依拠した L. D. Benson, ed. (1987) *The Riverside Chaucer*, OUP を取り上げた。4 テクストの編集方針と言語特徴の関係性を解明し、チョーサーのテクスト批評に貢献することを目指す。

(2) Hg 写本は、『カンタベリー物語』において、最も古いとされる写本で、チョーサーの生前の時から書かれ始めた可能性がある。写字生は編集途中に終わってはいるものの、恐らくチョーサーの監督の基に書かれ始めたことは、彼の言語体系を十分に理解した上で書いたと考えられる。編集には口承的側面が強く反映する。他方、El 写本は、同じ写字生によるものだが、編集を施しており、レイアウト、装飾、絵の挿入、文字、形態、語彙、統語等の様々なレベルで編集を施している。この写本は最も完成度が高く、書き言葉として読者を対象に書き直された可能性がある。この写本は従来多くの刊本の底本にされてきた。これら 2 写本の写字生は、‘Adam’ (Adam Pynkhurst)と同定され(Linne Mooney2006)、両写本の研究は一層大きな展開がなされている。

(3) Blake (1980)は Hg に忠実に従っている。Benson (1987)は、原則 El に基づいているものの、多くの場合で Hg の特徴を取り入れている。4 つのテクストのパラレルコンコーダンスは、益々重要度を増しているが未だ完成されてはいない。本研究では、写字生の編集方法の類似点と相違点、チョーサーのオリジナルテクストの構築への示唆、また現代の刊本に見られる編集態度の違いに対して、学会に対して第一級の資料を提供できると考える。

(4) 平成26年度は『カンタベリー物語』Hg、El写本の散文、MelibeeとParson’s Taleのパラレルコンコーダンスを完成させると共に、それに対応する2刊本を含めた散文の4テクストのパラレルコンコーダンスを作成する。平成27年度は、Hg, El写本とBlake, Bensonの4テクストからなる『カンタベリー物語』全体のパラレルコンコーダンスを作成し、特に基本的な語彙特徴を調査する。そして平成28年度には4つのテクストを比較し、2写本と2刊本の言語特徴を更に広げ、かつ計量的・統計的な観点から解析することで、それぞれのテクストの特性と関係性を明らかにする。

(5) 本研究は、チョーサー及び中英語テクストの電子化という国際的動向に対応している。Hg, El 写本の CD 版テクストが、*The Canterbury Tales Project* (Estelle Stubbs の編集)より 2000 年に出た。しかし『カンタベリー物語』の写本と刊本を合わせたコンコーダンスは国内外でこれまで作成されていない。本研究は、同一の写字生の編集過程、更にそれぞれの写本に依拠した現代の刊本での編集過程が同時的に比較・記述できるチョーサーの言語に対する新しい研究手法を目指している。このコンコーダンスでは、電子化されていることから、写本全体あるいは刊本全体に通底する特性を統計的な分析を通して、明らかにすることを意図している。コンピュータの活用により、視点の設定次第でコーパス言語学的に多様な計量的なデータを容易に

入手することができる。この第一次資料は、作家のオリジナルがない場合のテクストのキャノン査定、同一写字生の編集上の許容幅、刊本編者の態度の違い等、多くの研究者にとって意義のあるものだと考えられる。

(6) 本研究では写本と刊本の 4 テクストのパラレルコンコーダンスを作成し、散文テクス及び韻文のテクストの比較を含む多様な言語処理ができ、当初の目的に沿い、それぞれのテクストの類似点と相違点を客観的かつ体系的に捉えることを可能にした。

言語資料を随時公刊して世界の研究者の利用に資する予定である。

３．研究の方法

上記の研究目的を達成するために、下記の手順で研究を進めた。

(1) 平成 26 年度は、これまで完成途中で終わっていた『カンタベリー物語』Hg、El 写本の散文、Melibee と Parson's Tale のパラレルコンコーダンスとそれに対応させた 2 刊本を含む 4 テクストからなるパラレルコンコーダンスを、特に研究分担者、佐藤健一氏（広島大学）作成のプログラムの協力を得て作成した。

また、研究成果の一部を平成 26 年 7 月にアイスランド、レイキャビックで開催された第 19 回新チョーサー学会で発表し、司会者の連合王国、Oxford 大学 S. Horobin 博士、及びカナダ、Saskatchewan 大学 Peter Robinson 教授から有益な助言を得た。

中尾と地村は電子化された散文データのチェックと修正、川野は統計データ作成と解釈、佐藤はパラレルコンコーダンスのプログラム開発及びそのための言語処理を担当した。また研究代表者の中尾はデータ整理の最後の総括をした。

(2) 平成 27 年度は、平成 26 年度に行った研究成果、散文テクストからなる写本・刊本の４テクストのパラレルコンコーダンスを含んで、『カンタベリー物語』全体の 4 テクストパラレルコンコーダンスを作成すると共に、その基本資料である語彙特徴の類似点と相違点を調査した。写本と刊本の各種語彙リストを作成し、その特徴を調査した。

中尾と地村は 4 テクストの語彙リストの作成及びチェック、川野は統計データの集計と解釈、そして佐藤は研究視点に対応するプログラム開発とデータ―構築を担当した。研究の総括は中尾が行った。

(3) 平成 28 年度は、平成 27 年度で収集した語彙調査に加え、言語テクストの様々なレベルにカテゴリー分けして、分析を更に深めていった。句読点、文字（飾り文字）、形態(final-e や y-prefix)、語彙、そして統語的観点(否定表現の異同等)から記述し、データの統計的な処理を施した。

研究成果の一部を平成 28 年 7 月に連合王国ロンドン大学で開催された第 20 回新チョーサー学会で発表した。

中尾は、語彙、句読点そして文字を、地村は形態と統語を、川野は統計解釈を、佐藤は統計分析とそのデータ化を担当した。また中尾は研究の総括をした。

言語資料及びその解釈を、４．研究成果に示すように、随時公刊して世界の研究者の利用に資すようにした。

４．研究成果

(1) コンピュータを利用し、『カンタベリー物語』のHgとElに関して、これまで途中段階に終わっていた散文作品を完成させ、結果4テクスト全ての作品のコレーション・コンコーダンスを作成した。

(2) 2016年7月にアイスランド、レイキャビックで開催された第19回新チョーサー学会で、研究成果の一部（Hg, El写本と初期刊本、キャクストンのテクスト比較）を発表した。この発表は、Jimura, Akiyuki, Yoshiyuki Nakao, Noriyuki Kawano, and Kenichi Satoh (2016)で論文化した。

(3) 2016年7月に連合王国、ロンドン大学で開催された第20回大会で、『カンタベリー物語』の一作品「トパス卿の話」に着目し、視覚的にレイアウトされた写本テクストと刊本テクストに起因する読みの違いについて、ポスター発表した。

(4) 2016年7月に連合王国、ロンドン大学で開催された第20回大会で、中英語テクスト編集へのディジタル的アプローチを企画すると共に、研究成果の一部を発表した。

(5) 2012年7月にイタリア、シエナで開催された第17回新チョーサー学会で発表した原稿（Hg, El写本間での写本の飾り文字と句読点、ヴァーギュールの比較調査）は論文化し、中尾・地村(2016)で発行された。

(6) 散文作品であるMelibeeとParson's Taleが完成したことで韻文作品と比較対応することが可能になった。刊本とも対応させ、4テクスト間のより精緻な研究体制が整ったことは大きい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計９件）

① Nakao, Yoshiyuki. "Chaucer's Comment Clauses with Reference to *Trowe* and *Wene.*" Tani, Akinobu and Jennifer Smith (eds.), *Studies in Middle and Modern English: Synchronic Aspects*、査読有、Kaitakusha、2017、pp.91-117、発行予定.

② 中尾　佳行「sweteの文脈と意味—Chaucerの「尼僧院長の話」の場合—」福山大学『大学教育論叢』、査読無、第3号、福山大学大学教育センター、2016、 pp. 1-15.

③ 中尾　佳行・地村　彰之「『カンタベリー物語』の写本と刊本における言語と文体について」堀正広編.『コーパスと英語文体』、査読有、東京：ひつじ書房、2016、pp. 21-52.

④ 中尾　佳行「英語の発達から英語学習の発達へ—法助動詞の第二言語スキーマ形成を巡って—」家入葉子編.『これからの英語教育—英語史研究との対話—』（Studies in the History of the English Language, 5）、査読有、大阪：大阪洋書、2016、 pp. 55-88.

⑤ 中尾　佳行「コミュニケーションの「ツール」を超えて—人文学的「知」からの問いかけ—」柳瀬陽介・西原貴之編著.『言葉でひろがる知性と感性の世界—英語・英語教育の新地平を探る』、査読有、2016、渓水社、pp. 275-305.

⑥ Jimura, Akiyuki, Yoshiyuki Nakao, Noriyuki Kawano, and Kenichi Satoh. "A Computer-Assisted Textual Comparison among the Manuscripts and the Editions of *The Canterbury Tales*: With Special Reference to Caxton's Editions." 柳瀬陽介・西原貴之編著.『言葉でひろがる知性と感性の世界—英語・英語教育の新地平を探る』、査読有、渓水社、2016、pp. 68-85.

⑦ Nakao, Yohsiyuki, Akiyuki Jimura, Noriyuki Kawano. "Choice and Psychology of Negation in Chaucer's Language: Syntactic, Lexical, Semantic Negative Choice with Evidence from the Hengwrt and Ellesmere MSs and the Two Editions of the *Canterbury Tales.*"広島大学英文学会『英語英文学研究』(*Hiroshima Studies in English Language and Literature*)、 査読有、59、2015、pp. 1–34.

⑧ 中尾　佳行「チョーサーの『トロイラスとクリセイデ』における"assege"—＜包囲＞（内、境界、外）の認知プロセスを探る」東雄一郎・川崎浩太郎・狩野晃一共編.『チョーサーと英米文学　河崎征俊教授退職記念論集』、査読有、東京：金星堂、2015、pp. 379–58.

⑨ Nakao, Yohsiyuki. "Linguistic Differences Between the Hengwrt and Ellesmere Manuscripts of *The Canterbury Tales*: The Multifunctions of the Adjectival Final *–e* and the Scribe's Treatments." Ken Nakagawa ed. *Studies in Modern English: The Thirtieth Anniversary Publication of the Modern English Association*、査読有、Tokyo: Eihosha、2014、pp. 69–84.

〔学会発表〕（計５件）

① 中尾　佳行「『トロイラスとクリセイデ』における＜境界＞の身体化— チョーサーの話法とポリフォニー」日本中世英語英文学会企画シンポジウム：「チョーサーと多文化共生」（司会　地村　彰之（岡山理科大学））2016年、12月11日）関西大学、千里山キャンパス（大阪府・吹田市）.

② Jimura Akiyuki and Yoshiyuki Nakao. "Roundtable: Digital Approaches to Middle English Editing." (Organizer: Akiyuki Jimura, Emeritus professor of Hiroshima University and Okayama University of Science, and Yoshiyuki Nakao, Emeritus professor of Hiroshima University and Fukuyama University, Chair: Yoshiyuki Nakao) . (Cooperator: Hideshi Ohno, Hiroshima University, "The Manuscripts and Editions of *The Canterbury Tales*: Textual Variations and Readings.") The 20th Biennial Congress of the New Chaucer Society, London University, UK. 12 July, 2016. ロンドン大学（ロンドン、連合王国）.

③ Nakao, Yoshiyuki.. "Chaucer's Language Embodied: Progressive Diminution in *Sir Thopas.*" The 20th Biennial Congress of the New Chaucer Society, London University、UK. 11 July, 2016. ロンドン大学（ロンドン、連合王国）.

④ Noriyuki Kawano, Yoshiyuki Nakao, Akiyuki Jimura, Kenichi Satoh. "A Computer-assisted Textual Comparison among the Manuscripts and the Editors: With Special Reference to Caxton's Editions." The Nineteenth Biennial International Congress of the New Chaucer Society, held in Reykjavík, Iceland, 18 July, 2014.（レイキャビック、アイスランド）.

⑤ 中尾　佳行「英語の発達から英語学習の発達へ—法助動詞の第二言語スキーマ形成を巡って」日本英文学会第 86 回大会、2014 年 5 月 25 日. 北海道大学札幌キャンパス（北海道・札幌市）.
（Proceeding. The 86rd General Meeting of the English Literary Society of Japan 24-25 May 2014 (付　2013 年度支部大会 Proceedings) 日本英文学会 2014 年 9 月 16 日発行、pp. 31-32.）

.

〔その他〕
ホームページ等
http://rdbv.fukuyama-u.ac.jp/view/FziFx
において教員経歴及び代表的な業績を閲覧可能。
発行された論文について、
ynakao@fukuyama-u.ac.jp に問い合わせてもらえれば PDF で入手可能。

６．研究組織
(1)研究代表者
中尾　佳行 （NAKAO, Yoshiyuki）
福山大学・大学教育センター・教授
研究者番号：１０１３６１５３

(2)研究分担者
地村　彰之 （JIMURA, Akiyuki）
岡山理科大学・教育学部・教授
研究者番号： ００１３１４０９

佐藤　健一 （SATOH, Kenichi）
広島大学・原爆放射線医科学研究所・准教授
研究者番号：３０２８４２１９

川野　徳幸 （KAWANO, Noriyuki）
広島大学・平和科学研究センター・教授
研究者番号：３０３０４４６３